

血液成分を使用した代謝疾患の確定診断に関する研究

北大小児科 荒 島 真一郎・永 井 文 作

(I) 赤血球を用いたガラクトース血症の診断

- (i) 新生児マススクリーニングで Paigen 法 1.0 mg/dl Beutler 法 正常の児について赤血球の 4 Epimerase 活性を測定した。Gitzelman and Steinman S の方法にしたがって行った。正常対照 ($n=7 \cdot 4.53 \pm 0.58 \mu\text{moles/hr/ml RBC}$)、患児は 0.38 、母親 0 であった。
- (ii) D-Galactose-1- ^{14}C を用いた Gactokinase と Gal-1-P uridyl transferase について Robinson S の方法で検討した。正常対照では Rf の大きい順に Galactose, Gal-1-P, UDP-Gal の peak に分離し診断に有効であることが確認された。

(II) 抗痙攣剤による代謝性アシドーシスの発生機序に関する研究—赤血球炭酸脱水酵素の動態について

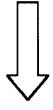
主にフェノバルビタール及びジフェニールヒダントイン(アセタゾラマイドは除く)の投薬を受けている37名について赤血球炭酸脱水酵素(アイソザイムCA-BとCA-C)を谷口らの方法で測定した。10名にアシドーシスと著明なCA-Bの活性低下(アシドーシス群 $0.13 \pm 0.04 \text{ units/mg}$ —CA-B、対照 0.51 ± 0.06)と低Ca血症を認め、CA-Bの活性低下によるアシドーシスの発展とそれによるCa代謝異常が強く示唆された。

未熟児における Adenosine Deaminase 及び Purine Nucleoside Phosphorylase の経時的発達について

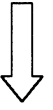
名古屋市立大学小児科

和 田 義 郎
小 林 道 生

近時、細胞の免疫機能が物質の新陳代謝と密接に関連することが明らかとなり、"先天性代謝異



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



- () 赤血球を用いたガラクトース血症の診断
- () 抗痙攣剤による代謝性アシドーシスの発生機序に関する研究—赤血球炭酸脱水酵素の動態について